

# 平成 28 年度事業計画書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

## はじめに

『子供の時代に子供らしい体験を重ねること、四季折々の変化を体で感じながら心を耕していくことは、人間が成長していく上で欠かせない貴重な財産であるに違いない』

この財団設立の理念の基に「子ども自然体験塾」を実施してから 10 年が経過しました。しかしながら、時代の変化とともに、変革の必要性も感じられるようになりました。幸いにも、一昨年より守屋 開先生を講師として「出前子ども自然体験活動“精進川の水生生物と命のつながり”」を、中の島地区の精進川流域において実施し、昨年は札幌市が推進する生物多様性の保全に関する活動である「まちなか生き物活動」の委託事業として体験活動と合わせて調査活動（昆虫・水生生物）を行いました。

したがって、本年度は「子ども自然体験塾」は発展的解消し、札幌市が推進する「まちなか生き物活動」に連動して、「子どもまちなか生き物塾」としての体験活動と、その事前準備のための調査活動（精進川河畔林の樹木）を実施します。

併せて普及に係る活動の一環として、当財団のホームページが国立国会図書館のインターネット資料収集・保存・公開事業（WARP）に採用されたこともあり、「青山慎一先生の子ども世界の昆虫館」の充実と、HPの利便性向上のためスマートフォン対応とWARPの保存機能に対応するためのリニューアルを行います。

以上のことを踏まえ事業計画を策定しました。

事業ごとの計画は、次頁以下のとおりです。

1、定款第4条第1項第1号に掲げる事業を次の計画により実施する。

(1) 自然体験活動の主催事業（公益目的事業1）

ア、活動名

子ども自然体験活動「子どもまちなか生き物塾」

(目的)

中の島地区を流れる精進川の自然を主なフィールドとして、守屋 開先生を総合コーディネーターとして精進川の流域生態系を中心に自然界の“命のつながり”の仕組みを学びます。この体験を通して、生物多様性の重要性について関心と理解を深め、かけがえのない自然を、人間の知恵で、後世にのこせるように、何をなすべきなのか、子供たちと共に考えます。併せて、精進川流域（豊中公園を中心とし、上流域およそ300m、下流域およそ200m範囲）の樹木の調査を行い、川と河畔林と水生生物の係りについて考察します。

①活動Ⅰ 「子どもまちなか生き物塾」

“守屋 開先生の精進川の水生生物と命のつながり”

～精進川の今を知り、未来（あした）へつなごう～

(活動のねらい)

精進川に生息する水生生物の採集・観察・分析をとおして、自然界の仕組みや命のつながりについて学び、自然を守り育てる大切さについて考えます。

○塾 長 守屋 開先生（日本生態学会員・日本陸水学会員）

○講師・指導者 外部 2名、財団 3名

○募集人員 30名

○実施日 7月30日（土）

○活動場所 精進川（豊中公園沿い）、中の島小学校

○主なプログラム

- ・水生生物の観察・採集
- ・採集した水生生物を顕微鏡等で観察と同定
- ・守屋 開先生のお話『精進川の水生生物と命のつながり』

②活動Ⅱ 「子どもまちなか生き物塾」

“守屋 開先生と一緒に精進川の自然環境を究めよう”

～親子で自然に遊んで科学する～

(活動のねらい)

自然を眺めたとき様々な疑問に出会います。森林にある木々や葉についての不思議！木々と他の生き物との関係での不思議！木々を取り巻く環境との関係での不思議！このような不思議！な現象の一つひとつを科学的に調べることにより、より深く自然の仕組みを理解すると共に、科学的に物事を考える態度を育てます。

○塾 長 守屋 開先生（日本生態学会員・日本陸水学会員）

○講師・指導者 外部 2名、財団 3名

○募集人員 30名

- 実施日 8月6日(土)
- 活動場所 精進川(豊中公園沿い)、中の島小学校
- 主なプログラム

(調査)

- ・環境調査(気温・地温・pH・湿度)
- ・植物調査(木の葉採集)
- ・動物採集
- ・土壌採取

(実験)

- 1,簡易ツルグレン装置作成と土壌動物採捕
- 2,土壌動物同定
- 3,土壌中の枯葉の状況確認
- 4,酸性雨相当の水を、土壌中を潜らせて前後のpHを測定
- 5,気象データ等の整理

### ③活動Ⅲ 「子どもまちなか生き物塾」

守屋 開先生の精進川の源流探査

(活動のねらい)

街中を流れる精進川の源流部が、どのようになっているのかを調べる。

一般的に、河川は源流部から下流まで河川勾配も緩やかになり、水量が増すとともに川幅がおおきくなり、水質や生息生物も変化することを確認する。

○塾長 守屋 開先生(日本生態学会員・日本陸水学会員)

○講師・指導者 外部 2名、財団 3名

○募集人員 30名

○実施日 9月4日(日)

○活動場所 精進川上流域(駒が丘ダム及び精進川ダム周辺)

○主なプログラム

- ・精進川の水温・水質・流速流量を調べる(下流・放水路・中流・上流)
- ・放水路の高低差確認と水量の変化を調べる(放水路)
- ・現在もヘイケボタルが生息していると思われる環境を調べる  
(中流・駒岡4号橋付近)
- ・カワシンジュガイが生息していたところの環境を調べる(上流)
- ・地質も含めて河川のでき方と生き物の関わりを子供達に考えてもらう

イ、名義後援

- ・札幌市教育委員会
- ・中の島魅力ある地域づくりの会

ウ、協力

- ・札幌市立中の島小学校
- ・中の島一区第3町内会

エ、募集対象

- ・小学3年生から6年生、中学生
- ・低学年は保護者同伴

オ、募集方法 札幌市内小学校等へチラシ配布

カ、事前準備としての調査活動

①豊中公園を中心とし、上流域300m、下流域200m範囲の河畔林の樹木調査

②委託先

・道民の森ボランティア協会（調査日2日、調査要員8名）

キ、普及活動

国立国会図書館のインターネット資料収集・保存・公開事業（WARP）に採用されたこともあり、Web情報発信の充実を図ります。

①ホームページのリニューアル

・完全スマートフォン対応

・WARPの保存機能に対応

②青山慎一先生の子ども世界の昆虫館

・標本のWeb公開300箱

・コレクション収集にまつわるエピソードの紹介

以上